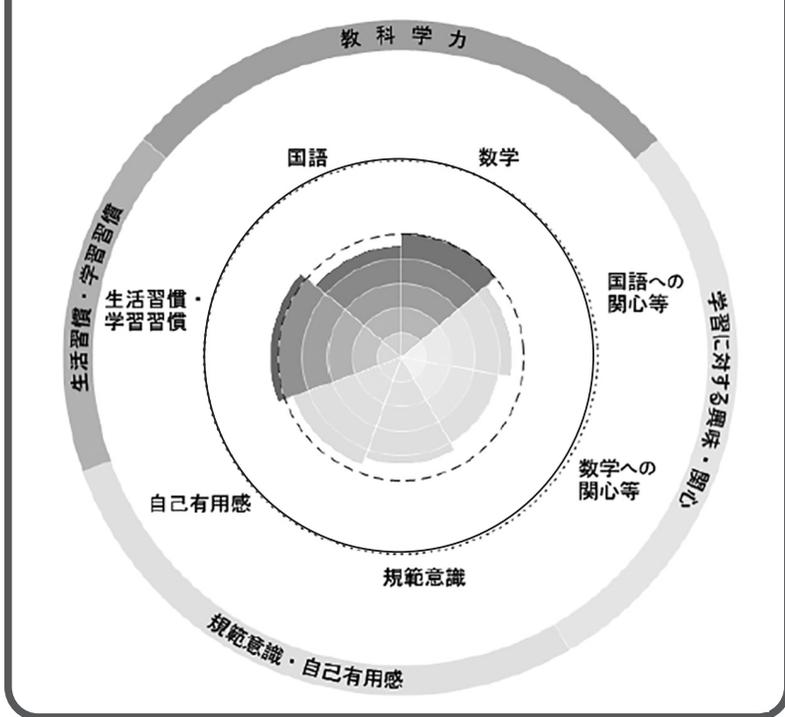


調査結果チャート (日野町中学校)

<児童生徒>生徒質問紙 (全国基準)



課題として挙げられた項目について、質問紙からもその様子が伺えました。

■中学校では

▼国語では全国値をやや下回り、数学はほぼ同等、題意の理解や読み取る力の育成が求められます。

国語については、全国値をやや下回りました。

学習指導要領の領域別平均正答率からみると、「話すこと・聞くこと」の領域においては、全国値には届

かなかったものの、8割近い平均正答率でした。一方で、特に「読むこと」の領域において、他領域に比べ大きく全国値を下回り、課題が伺えました。

問題形式別では、特に短答式の問題に対する正答率が大きく下回る結果でした。数学については、全国値とほぼ同等でした。

学習指導要領の領域別平均正答率からみると、「図形」領域のみが全国値を10ポイント近く下回り、それ

以外の領域については全国値を上回る結果でした。

問題形式別では、選択式の問題に対する正答率が全国値を10ポイント以上下回り、それ以外の問題形式別正答率は全国値を上回る結果でした。短答式の問題については7割を超える平均正答率でした。

▼生活習慣、学習習慣については良好、学習に対する興味関心の高揚に課題が見られます。

質問紙の回答について、肯定的な回答が全国値を上回っている回答が全体の5割以上ありました。地域との関わりに関する項目や、ICTの効果的な活用に關わる項目に対しては、ほとんどが全国値を上回る結果でした。

教科に対する興味関心、将来への有用感などの項目については全国値を下回り、課題が伺えます。

また、小学校の調査結果と同様に、質問紙の中で問われた「記述式の問題への取り組み方」について、「書く問題で解答しなかったり、書くことを途中であきらめたりしたものがあった

た」という回答が全国値より高く、小中共通した課題であることが伺えます。

■成果のみられる部分

□小学校では、国語、算数ともに学習への興味関心について肯定的な回答が高く、児童の学習に対する意欲的な姿が伺えます。

□中学校では、国語の条件作文などの記述式の問題で全国値を上回るものがあり、日ごろからの書く活動の成果が表れているところも見受けられます。

□小学校、中学校ともに、学習に対するICT機器の活用について肯定的な回答

が全国値を大きく上回る項目が多く、教師が授業の中で積極的にICT機器を活用するとともに、児童・生徒も意欲的に活用していることが伺えます。

□小学校では、前回調査に比べ自己有用感が高まり、全国値も上回っています。これまでの他調査の結果からも課題として挙げられていた項目でもあり、大きな成果が伺えます。

■課題のみられる部分

■書くこと(書く能力)

問題が求めている条件を満たすように整理し、記述する力に課題があります。目的や意図に応じて、理由を明確にしながら、自分の考えが伝わるように書いたり、



必要な情報を取捨選択し、条件を満たすように書いた力をつけるにつれて、必要がなくなります。

この度調査した教科だけでなく、各教科、領域の中で、指導者が意図的かつ計画的に書く活動を位置づけるなど、工夫した授業を展開していくことも対策の一つと言えます。

また、これまでも継続的に力を入れて取り組んでいる、授業における「振り返り」についても、目的をもった振り返りにしたり、児童・生徒が相互に交換できるように位置づけたり、日常生活や次時に結びつくような

ものとなるよう工夫したりするなど、さらに研究を深めていくことも必要であると考えます。

それらを積み重ねる中で、言葉の特徴や使い方の言語に関する知識・技能などの力の育成にもつなげることができると考えます。

■読むこと（読む能力）

段落相互の関係や役割を意識し文章全体の構成を捉えて要旨を把握したり、目的に応じて文章と図表とを結び付けて必要な情報を読み取ったりすることに課題があります。

また、その目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約すること



にも課題があります。図表などを含む文章を読む際、図表などがどの部分と結びつくのかを明らかにし、関係を捉えて読むことができるようにすることが大切であると考えます。この力が、先に述べた「書くこと（書く力）」にも関連します。また、文章における段落の機能や構成

を意識した指導、多読や辞書の活用などの語彙を増やす活動なども意識することで、基礎基本の確実な定着にもつながります。

■興味関心が生きる授業づくり

小学校では多くの教科でその必要性や重要性など、教科に関する興味関心は高い一方、中学校では、教科によっては肯定的回答が低い教科もありました。

児童・生徒の教科に対する興味や関心が、学習を好む意識や意欲へつながり、そして理解へと反映されるような授業づくりが必要と考えます。また、これまでも取り組んできた、児童・生徒が意欲や好奇心、挑戦心が持てるような問題の提示や授業展開など、引き続き授業改善に取り組んでいくことが必要です。

■ふるさとキャリア教育の推進

地域や社会への関心に関わる質問項目では、小学校、中学校ともに全ての質問項目で全国値を上回っています。特に、小学校では「地域や社会をよくするために何をすべきか考えたことが

ありますか」という質問項目に対しては、肯定的な回答が全国値を20ポイント近く上回り、中学校では「今住んでいる地域の行事に参加していますか」という質問項目に対しては、肯定的な回答が全国値を20ポイント以上上回る結果でした。

町では、地域との連携や地域人材の活用、保小中、さらには高校との連携など、積極的にいい、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進による、地域とともにある学校づくりを進めています。

児童・生徒が、自分たちの地域で、地域のものや人にたくさん触れることで、地域を愛する子ども、自分の生き方を見つめることができる子ども、の育成につながると考えます。

■今後の取り組み

■学ぶ意欲を引き出す課題や、めあての設定を意識した授業改善を図ります。

■「めあて・まとめ・ふりかえり」を意識した授業改善を図ります。

■自分の考えや思いを整理し、的確に書くことのできる



る活動の確保や時間の設定、展開の工夫など、各教科でつけた力がさまざまな場面で活かされることをめざします。

■情報を整理、取捨選択し、必要なものを効果的に活用できるような授業の展開、工夫に取り組みます。

■タブレット端末をはじめ、ICT機器を効果的に活用し「分かる」「できる」が実感できる授業づくりをめざします。

■家庭と連携し、学習習慣や、家庭学習のより一層の充実に努めます。

■保小中、さらには日野高校との連携をこれまで以上に密に行い、工夫した特色ある取り組みを進めるとともに、地域の人材や素材を有効に活用し、地域とともにある学校づくりに努めます。